

国際漁業学会 (JIFRS) 短信

<http://www.jifrs.info/>

事務局 〒631-8505 奈良市中町 3327-204 近畿大学農学部内

Tel : 0742-43-6021 Fax : 074243-6021 E-mail: jifrs.kindai@gmail.com

郵便振替番号 : 00100-6-26448 国際漁業研究会

三菱東京UFJ銀行富雄(トミオ)出張所 普通口座 3698979 国際漁業研究会

2016年度第1号

2016年6月1日刊

目次

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 1. 理事あいさつ「グリーンコンシューマーと水産エコラベル」 | 大石 太郎 |
| 2. 2016年度JIFRS大会(東京大会)の案内 | 事務局 |
| 3. 学会賞(国内賞)候補者の推薦依頼 | 黒倉 壽 |

1. グリーンコンシューマーと水産エコラベル

大石 太郎 (国際漁業学会理事・福岡工業大学)

私の専門は、環境問題への経済的な解決策を研究する環境経済学という分野です。この分野では、環境汚染や資源枯渇の直接的原因であることが多い企業の生産活動をコントロールするための政策・制度を考えるアプローチが多数を占めますが、私自身は環境に良い商品を優先して買う消費者である「グリーンコンシューマー」や環境・資源に良い商品かどうかに関する情報を消費者に伝える「エコラベル」をキーワードにして、我々消費者が環境のために何が出来るのかという視点から研究に取り組んできました。手前味噌になりますが、昨年4月に大学院博士課程から取り組んできた研究内容を著書『グリーンコンシューマリズムの経済分析』として上梓しましたのでここで報告させていただきます。

この研究を始めた当初、市場の枠組みの中で持続可能な社会を実現していく上で経済の末端に位置する消費者の需要が変わることが最も根本的に重要ではないか、という思いがありました。いくら生産者が社会的責任に目覚め、環境や資源に配慮された商品を生産しても消費者がそれを買わなければ普及しません。しかし、消費者が環境・資源に配慮された商品を買うつもりさえあれば、そうした商品を作るインセンティブが生産者にも誘発され普及が進むと考えたからです。最初が変わるべきは消費者で、そのための環境教育や消費者教育が最優先課題であるというのが私の考えでした。

当時から10年ほど経過した現在は、そう単純ではない側面があることを痛感しています。例えば、本学会にも関連する水産エコラベルは、我が国での普及が遅れていると言われていますが、その原因は教育の不十分さだけに帰せられないように思います。たとえ消費者の水産エコラベルに対する認知や意識が十分に高くエコラベルの付いた水産物を買いたい気持ちがあったとしても、出回る数量・店舗が少なく身近にないため消費者の手が届かないという側面があるからです。実際、私が暮らしている街でも、郊外の大型量販店でしか水産エコラベル商品が扱われておらず、そうした商品を手に入れるためには車やバスでの買い出しが必要になります。結果、燃費や移動時間というコストがかかる上、店舗内でも全ての商品がエコラベル対応ではないため探す手間もかかります。これでは環境・資源に良い商品が欲しいという一部の消費者の思いは生産者に伝わりづらくなってしまいます。身近なスーパーやコンビニ、商店街などより多くの小売店で、より多くのエコラベル商品が扱われる必要があります。

他方、多くの小売店でエコラベル商品が扱われるためには、流通・加工業者も非エコラベル商品が混ざらないよう配慮していることを証明するための認定（いわゆる CoC 認証など）を受け、最も川上に位置する漁業者も持続可能な漁業を行い認証されている必要があります。結局、ニワトリが先か卵が先かではなく、消費者の需要と漁業者の漁業、それらをつなぐサプライチェーンが一斉に変わる必要がある点がこの問題の難しさの背景にあるのではないかと思います。

そのような一体的な変化をどのように生み出していけば良いか。難しい問題ではありますが、1つはオリンピックのようなビッグイベントがその契機になるかもしれません。2012年のロンドン、2016年のリオデジャネイロのオリンピックに倣って、2020年の東京オリンピックで提供される水産物も持続可能な漁業・養殖業により調達されたものが使用される方向で調整が進められると言われていています。ところが、そうした水産物であることを証明する水産エコラベルの普及が我が国の漁業・養殖業で遅れていることから、4年後に国産水産物で外国人をもてなすことが出来ないのではないかという問題が新聞や雑誌・インターネット記事に取り上げられ、先日の日本水産学会でも海部健三先生と小川健先生が企画されたミニシンポジウムでその問題が話し合われ関心を集めていました。こうした話題が関係者に広く注目されることは、上手くすれば、水産業のステークホルダー全体が変わるきっかけになることが期待できるように思います。

また研究者も、そうした変化をサポートする役割を期待されていると言えるかもしれません。この点については、農林水産省が公募していた競争的研究資金を本学会理事で水産エコラベルについても詳しい八木信行先生が2016年度から取得され、水産エコラベルの普及と我が国水産物の輸出促進を目指した研究プロジェクトが立ち上がることになり、私も共同研究者としてその一部に携わらせていただく予定になっています。私の担当パートは、これまで通り消費者を中心にした分析になりますが、より幅広い視野を持って貢献していければと考えています。

2. 2016 年度 JIFRS 大会（東京大会）の案内

2016 年度大会は、専修大学神田キャンパス（最寄駅：神保町駅[A2 番出口]）にて行うことになりました。JIFRS としては初めての会場になりますので、多くの会員、関係者のご参加をお待ちしています。

会場：専修大学神田キャンパス 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-8
（会場責任者：小川健[専修大学・経済学部・講師] 当日連絡先：(090)4255-1796）

日時：2016 年（平成 28 年）8 月 6 日（土）～7 日（日）

8 月 6 日午前：理事会

午後：シンポジウム「水産業における国際貿易研究の到達点と展望（仮）」

（座長：近畿大学 多田稔ほか）

懇親会（神保町周辺で会場を確保予定）

8 月 7 日午前：個別報告（申し込み数が多ければ午後にも追加します）

午後：総会

大会参加費：一般会員 2,000 円、一般非会員 3,000 円、漁業関係者・学生無料
（懇親会費：一般 5,000 円、学生 3,000 円）

詳細なスケジュールや会場情報は、随時ホームページに掲載していきます。

※懇親会へ参加される方は、7 月 15 日までに国際漁業学会事務局（jifrs.kindai@gmail.com）までお申し込みください。

※個別報告は、1 報告あたり 25 分（質疑含む）の予定です。個別報告を希望される会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを添えて、6 月 30 日までに国際漁業学会事務局（jifrs.kindai@gmail.com）までお申し込みください。また、7 月 15 日までに報告要旨（40 字×25 行以内）を、7 月 31 日までに報告資料（当日までに改変可、事前に座長に渡します）を、それぞれメールで事務局まで提出してください。

※報告要旨集等は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ（<http://jifrs.info>）からダウンロードをお願いします。（7 月 20 日頃に掲載します）

3. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼

黒倉 寿（国際漁業学会学会賞選考委員長・東京大学）

2016年度の学会賞候補者の選考を開始します。選考要領は下記の通りです。自薦・他薦を受け付けますので、積極的に推薦してください。賞の種類は以下の3種類です。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員（個人）。過去1年間（2015年1月～2016年4月）の業績が対象です。

<奨励賞>おおむね40歳以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員（個人）。本学会誌第14巻掲載論文（会誌としては未刊行（近刊）ですが、on line ジャーナルの第14巻に掲載されている和文・英文の計4件）が対象となります。

募集期間：2016年6月30日（木）締め切り

推薦方法：推薦する賞のジャンルとその理由（形式自由）を、JIFRS 会長（多田稔 tadacom@nifty.com）宛てに、Eメールにて送付してください。

選考方法：会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与：2016年度国際漁業学会大会の際におこなう総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。